

令和２年度 学校評価（年度末）

教職員自己評価について （回答率×評価平均）÷４×１００として８０％以上をＡ，７０％以上８０％未満をＢ，７０％未満をＣとしています。

外部評価について 上記教職員自己評価と同じく，保護者と児童生徒それぞれから％の平均を求め，８０％以上をＡ，７０％以上８０％未満をＢ，７０％未満をＣとしています。

学校運営協議会委員の皆様から「教職員の自己評価の適正さ」と「改善策の適正さ」について，Ａ～Ｃの３段階で評価していただき，平均値を全体の評価としています。

項目	NO.	評 価 内 容(1～24まで教職員項目，25～26は保護者項目)	教 職 員		保 護 者		児 童 生 徒		〇成果 ▲課題 ☆改善策	自己評価	外部評価	自己評価の適正さ	改善策の適正さ
			回答率	評価平均	回答率	評価平均	回答率	評価平均					
1 学校運営に関して （分析担当：管理職）	1	子どもと向き合うための時間の確保と効率的な学校運営による働き方改革を進めている。	100%	3.5	100%	4.0	100%	4.0	〇職員会議のペーパーレスなどムリ無駄を省くことで時短をすすめ、校務の効率化を図ることができた。 〇コロナ禍に対応しつつ行事についても働き方改革の視点から精選が進んだ。 ▲職員一人一人が働き方について意識改革をしないと、真の働き方改革につながらないことを十分に理解したい。 ☆ＩＣＴを有効に活用しながら効率的な業務と見通しをもった組織的な学校運営を推進するとともに、毎週月曜日を定時退勤日とし、学期ごとに超過勤務縮減週間を設定し働き方改革をすすめる。	A	A	A	A
	2	参観日・学校だより・ＨＰ・学年学級通信等を通して教育活動の成果や課題を発信するなど地域や保護者との連携を十分に図っている。	100%	3.7	100%	4.0	100%	3.9	〇こまめな便り等により、学級や学校の様子を伝えることができた。 〇連絡メール、ＨＰを利用し緊急連絡をすることができた。 ▲コロナ禍により分館行事が全て中止となった。 ☆各種通信やＨＰを通じての発信を継続するとともに、分館行事を学校の授業や行事に組み入れることで地域や保護者とのより緊密な連携を実現させる。	A	A	A	A
2 教育課程に関して （分析担当：教務係）	3	児童生徒の実態を踏まえて指導の内容や時間を創意工夫し、重点目標である主体的・対話的に深く学ぶ力の育成を図っている。	100%	3.5	100%	4.0	100%	3.7	〇個別の指導計画を作成し、個に応じた指導の工夫をおこなっていた。 ▲学習が遅れがちな生徒に対して、自学を促すための課題を与えるなどの共通理解が早くから必要であった。 ☆GIGA端末等を使いながら学習課題や学習方法が適切なタイミングで児童生徒に伝わるように工夫する。	A	A	A	A
	4	小中連携を深め、学力や体力向上に向けた取組を組織的に企画・実施することで、併置・少人数の利点を活かした特色ある教育の充実を図っている。	100%	3.5	100%	3.9	100%	4.0	〇チャレンジタイムなど体力向上の取組ができた。 〇中学校の外国語担当教諭が小学校の外国語に乗り入れることで、力を付けさせることができた。 〇併置、小規模の利点を生かし、小中協働で行事ができた。 ▲家庭学習など昨年度取り組んでいたことができなかった。 ☆生活リズムチェック表を活用し、家庭学習のアドバイスを適切に行う。	A	A	A	A
3 学習指導に関して （分析担当：教務係）	5	問題解決的な学習の充実やICTを活用した授業改善、教材・指導方法を工夫することにより、個に応じたわかりやすい授業を心掛けている。	92%	3.5	100%	3.9	100%	3.9	〇ICTを使った教材の工夫に十分取り組めていた。特に遠隔授業が実現でき成果があった。 ▲G I G Aに対応した協働的な学習やクラウドの効果的な活用について実践を通して研修する必要がある。 ☆GIGA端末等を含めた授業改善の研修を行い、授業場面で実際にどのように活用していくか実践する。	B	A	A	A
	6	小中統一の学習規律や学習の手引きの定着に努めるとともに、eライブラリを活用するなど家庭学習の定着や義務教育修了時の生徒を常にイメージし、子どもの成長に生かす評価に努めている。	92%	3.2	88%	3.9	100%	3.8	〇生徒指導の機能を十分に活かし授業の中で学習規律について指導ができていた。 〇小学校から中学校に上がった児童生徒は、学習規律や問題解決型の学習に対応しやすいと考える。 ▲eライブラリは教科によって使用頻度に偏りがあり、昨年に比べeライブラリの活用ができていない。テスト前など活用をしっかりと呼びかけるようにしていきたい。 ☆学習規律の定着には時間が掛かるので根気よく指導していく。 ☆授業や家庭学習などでもeライブラリを含めたクラウドの活用を意識していく。	B	A	A	A
4 道徳教育に関して （分析担当：道徳推進教師）	7	「道徳の時間」を要とし、教育活動全体を通じて「心がふれあう場面」を仕組み道徳的心情を高めるなど道徳教育の充実に努めている。	92%	3.4	100%	3.9	100%	3.8	〇道徳で生徒が感じていたことを通信を通じて保護者にもフィードバックしていた学級が有り良かった。できれば、次年度は月に１度程度で良いので保護者に道徳の様子を伝えるようにするとよいと思う。 〇担任を中心に道徳の授業を充実させていた。 ▲道徳の授業を交流することができた。 ▲１人学級での道徳だと、多様な考えにふれる機会が少ないので、合同で行ったり、色々な先生に入ってもらなど、工夫が必要であった。 ☆道徳で多様な考えにふれる機会ができるよう工夫を行うとともに、各学級の参観日で１回は道徳を見せる機会を作る。	B	A	A	A
	8	教育活動を通して家庭や地域との連携を深め、社会への帰属意識や愛着心を育てることで「いじめ」防止の徹底を図るとともに、人権意識の向上に努めている。	92%	3.5	100%	3.9	100%	3.8	〇人権の花、道徳、朝会など日常的に「いじめ防止」とコロナによる偏見や差別をしないことについて指導し人権意識の向上を図ることができた。 〇少人数でも「いじめ」防止の指導をしっかりと行っている。 ☆これからも継続して「いじめ」未然防止の指導を行っていく。	A	A	A	A
5 研修に関して （分析担当：研究係）	9	校内研修を通じて教職に対する自覚を高め、教師としての資質・能力の向上に努めている。	100%	3.2	100%	4.0	100%	3.9	〇上へき複に向けての授業交流や、G I G Aスクール構想に向けての研修を進めることができた。 〇研究大会では模擬授業を行えたことで、一人一人の研修につながった。 ▲交流授業が良い刺激になったが、資質・能力の向上に繋げるには、更なる工夫が必要である。 ☆来年度はG I G Aスクール構想に向けた研修と授業に役立つ研修との二本立てで行う。	B	A	A	A
	10	校外への研修に積極的に参加し学びの環流をする等、教師としての資質・能力の向上に努めている。	100%	2.8	100%	3.9	100%	3.8	〇コロナ禍であったが、zoomでの研修等適宜参加することができた。 〇受講された方が資料を環流してくださり、勉強になった。 ▲eライブラリにおいては仕方が無い。オンライン講座等に参加していくと良い。 〇コロナ禍においては仕方が無い。オンライン講座等に参加していくと良い。 ▲研修を受講された方に環流のお願いなど、係からも働きかけをしたら良かった。 ▲市教研で予定していた研修会が中止となり残念だった。 ☆研修を進んで受けられるように、手続きの手順をわかりやすく示す。	B	A	A	A
6 特別活動に関して （分析担当：文化係）	11	運動会、文化祭など、子どもたちの心を育てる学校行事の実施に努めている。	100%	3.7	100%	3.8	100%	3.8	〇ミニ運動会を２回、文化祭も学習発表会として子供たちの成長を通じて小規模校の良さを保護者に公開することができ良かった。 〇運動会などはあの形式でいいのではないかと思う。子どもたちに考えさせ運営させ、達成感を味わわせることができた。 ☆来年度も児童生徒の心を育てる行事の実施を進める。	A	A	A	A
	12	学年の発達段階に応じて、子ども自身が判断・選択・決定する活動場面をつくるなどの児童生徒会や各集会活動などの実施に努めている。	100%	3.6	100%	4.0	100%	3.8	〇少ない人数にも関わらず担当の創意工夫で良い活動を企画し運営することができていた。 〇生徒指導部を中心に行われている。 ☆児童生徒数減になるので、内容を工夫し高学年以上で児童生徒会を再編成することで活動の場を保障する。	A	A	A	A
7 総合的な学習の時間に関して （分析担当：教務係）	13	地域の自然環境や外部人材を活用し、体験活動を重視した実践を進めている。	100%	2.6	100%	3.6	44%	4.0	〇笠踊りを地域から学べたのが良かった。 ▲コロナ禍の影響で分館やザリガニバスターズなどと連携した活動ができなかったのが残念だった。 ☆笠踊りは小中合同とし、その由来を継承しながら学習を進めるようにする。 ☆水生生物観察は、嵐山地区の環境を保全するという観点で来年度は学習を進める。 ☆オンラインで行う外部講師の活用についても、可能な限り探っていく。	C	C	B	A
	14	主体的な探究活動を促しながら、個に応じた支援を講じ、表現力や思考力を高める指導の充実に努めている。	100%	3.3	100%	3.9	100%	3.8	〇総合の発表会を通じて表現力を高めることができた。 〇どんな風に発表するかなど、自分でアイディアを出せるようになってきている。 〇コロナ禍により体験を通じて課題を設定した探究的な学習が不十分であった。 ☆体験活動については年度当初に設定するが、新型コロナの感染状況に応じて柔軟に計画を変更する。児童生徒の表現力や思考力を高められるよう学習展開を工夫する。	A	A	A	A
8 生徒指導に関して （分析担当：生徒指導係）	15	日頃から子どもの心に寄り添った指導に努めている。	100%	3.7	100%	3.9	100%	3.8	〇常に子どもの心に寄り添った指導をおこなった。 〇養護教諭と十分に連携を取り、個に応じていた。 ☆職員会議での実態交流を続け、小中全体で情報を共有しながら、子ども一人ひとりを丁寧に見ていく。	A	A	A	A
	16	いじめ防止や情報モラル、非行防止等の指導を充実し、問題発生の未然防止・早期発見に努めている。	100%	3.8	100%	3.9	100%	3.9	〇指導部通信を適宜発行し問題発生の未然防止につとめることができた。 ☆いじめ防止基本方針の配付で家庭への呼びかけや子どもたちへの継続的な指導を続けていく。	A	A	A	A
9 キャリア教育に関して （分析担当：教務係）	17	児童生徒の興味・関心・適性、夢や将来の職業観などを的確に把握に努め学年に応じたキャリア発達を育む指導をしている。	100%	3.3	100%	3.9	100%	3.6	〇職業調べを通じて将来の職業観などを育てることができた。 〇将来を見据えた進路指導資料が良かった。 ▲将来のことはあまいでも、好きなこと・やりたいことなど自分のことをもっと語れるようにしたい。 ▲小学校と中学校、各学年での取組と成果が見えてこないことがあった。 ☆キャリアパスポートを核として小中連携とキャリア発達が確認できるようにする。	A	A	A	A
	18	学校の教育活動全体を通して、社会的・職業的自立にむけた基礎的・汎用的能力を育む指導に努めている。	100%	3.3	100%	3.6	100%	3.4	〇日常から社会で生きていくために必要なマナーを中心に適切な指導ができた。 ▲学年相応に「こんなことをできるように挑戦しよう」みたいな目標があるとわかりやすかった。 ▲ソサエティ５、〇を生きた子供たちに必要な資質・能力はどういったものかをより意識した指導が必要であった。 ☆普段の授業、行事、学校生活全般において「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング」を育てていく。	A	A	A	A
10 健康安全に関して （分析担当：保体・生活安全係）	19	日常の基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を充実し、健康・安全に対する自己管理能力を養うとともに、体力向上の意識を養っている。	100%	3.8	100%	3.6	100%	3.3	〇日常的な健康指導を通じて感染症予防ができた。 〇校内掲示を充実させ、掲示物を通して児童生徒の健康管理能力を向上させた。チャレンジタイムでの体力向上が進んで良かった。 ▲中学校のチャレンジタイムは、活動時間の設定が難しく生徒も教師も多忙感があった。 ☆チャレンジタイムは小学校はこのまま継続していく。中学校は一斉実施は困難なので、子どもの実態に合わせ、日常的に体を動かすことを指導する。	A	A	A	A
	20	子どもたちが安心・安全に生活できるよう、校内の施設・設備の整備点検や登下校の安全確保に努めている。	100%	3.8	100%	3.8	100%	3.7	〇定期的な安全点検を行うことができた。 〇コロナ関連予算を活用し、手洗い等の励行が進んで良かった。 ☆月一回の点検だけでなく、日常的に危険箇所はないか目を配る。	A	A	A	A
11 特別支援教育に関して （分析担当：コーディネーター）	21	個別の支援計画・指導計画を作成し、支援のあり方について、全教職員で共通理解を図っている。	100%	3.8	75%	3.8	100%	3.7	〇学期毎に支援計画を作成し交流をおこなうことができた。 〇毎回の職員会議後に児童生徒交流により共通理解に繋がりが良かった。 ▲毎回の職員会議後の児童生徒交流に時間が掛かることがあった。 ☆個別指導計画の内容の精選を図り、学級経営計画等の内容との重複が少なくなるよう書式を工夫する。 ☆職員会議の時短を心掛け、毎回の職員会議後の生徒指導交流は継続する。	A	A	A	A
	22	小中コーディネーターを核として、保護者や関係機関等との連携を図っている。	92%	3.3	75%	3.8	100%	3.8	〇パートナーティーチャーと連携し実態把握と指導の充実を図った。 ☆今後もパートナーティーチャーを招聘して、より専門的な視点からの支援の助言をいただき、全職員に環流する。	B	A	A	A
12 学年・学級経営に関して （分析担当：教務係）	23	様々な活動場面で適切な目標や役割分担を定めることにより、自己存在の醸成や、高め合う集団作りを進めている。	92%	3.4	100%	3.9	100%	3.8	〇中３での研究授業や交流授業での話し合い活動を通じてより良い集団をつくりができていたと、子どもの姿で見ることもできた。 ▲自己肯定感を高めるために様々な方向からアプローチしなければならなかった。 ☆キャリアパスポートを活用し、自身の成長を振り返ることができるようにする。また、ICTの活用により自身の成長の記録を残すことも可能な範囲で行っていく。	B	A	A	A
	24	発達段階に応じて自信のもてる取組を増やす指導を通じて自尊感情が高まるよう工夫した指導を心掛けている。	92%	3.5	100%	3.9	100%	3.9	〇一人一人の心に寄り添う指導が実践されています。 ▲困難な課題でもスモールステップで「できそう」と思えるように、工夫する必要があった。 ☆発達段階や個に応じたそれぞれの課題を明確にし、スモールステップで「できそう」と思える活動を設定するように活動を工夫する。	B	A	A	A
13 児童生徒に関して （分析担当：教務係、生徒指導係）	25	子どもは、家庭でしっかり学習に励んでいる。	92%	3.1	100%	3.0	100%	3.4	▲学校全体で家庭学習に力を入れている様子の視覚化が必要である。 ▲出された課題はこなすが自学の仕方がしっかりと身についていないため、指導が必要。 ☆生活リズムチェック表を活用し、家庭学習のアドバイスを適切に行う。	B	A	A	A
	26	子どもは、あいさつや言葉遣いがよい。	100%	2.9	100%	3.3	100%	3.9	〇丁寧な言葉使いをしようと意識している。 ▲上下関係を踏まえた言葉遣いの意識が低いためできていない。卒業後を見越し指導が必要である。 ▲自分から挨拶をしたり気持ちの良い挨拶については課題があるので、継続指導が必要である。 ☆日常的に挨拶を意識させる指導をする。全校に呼びかけをするなど、小中共通課題として取り組む。	B	A	A	A